事業の概要

 事業
 一般国道354号 岩井バイパス
 事業 区分
 一般国道
 事業 主体
 茨 城 県

 起終点
 自: 茨城岩井市江山島 至: 茨城岩井市武弘
 延長 3.6 km

事業概要

一般国道354号は、群馬県高崎市を起点とし、茨城県鹿島郡大洋村に至る延長約213kmの主要幹線道路であり、一般国道50号、125号とともに本県を東西に横断し、本県西部地域においては、一般国道4号、294号等の南北軸と有機的に結合し、産業・観光の発展及び地域間交流に寄与し、豊かな地域づくりを支援する重要な路線である。岩井バイパスは、平成16年度に完了する「岩井水海道バイパス」に接続し、本県東西方向の交通機能を強化するとともに、現道から通過交通を転換させ岩井市中心市街地の渋滞緩和を図るための延長約3.6kmのバイパス事業である。

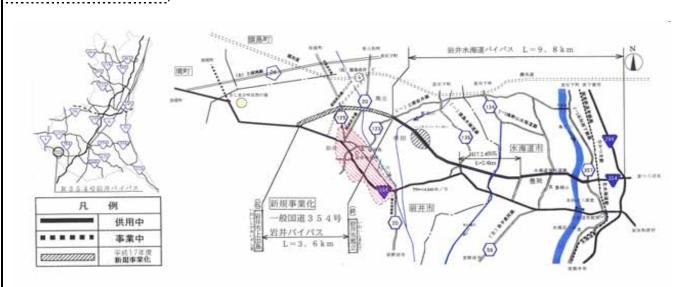
事業の目的、必要性

当該箇所は、公共施設や小売店舗が集中する岩井市の中心市街地にもかかわらず、大型車の混入率が比較的高く交通 混雑が恒常化しており、円滑な交通の確保に支障を来している。

このため、岩井バイパスは、現道からバイパスへの通過交通量の転換により、現道の交通混雑の解消と良好な都市環境の改善を図り、安全で円滑な交通を確保して国道354号の幹線道路機能を向上させ、地域の活性化に大きく寄与するものである。

全体事業費 4 7 億円 計画交通量 13,700台 / 日

事業概要図



関係する地方公共団体等の意見

岩井バイパスは、市街地における交通混雑の緩和、地域間交流の促進等に重要な役割を果たすことが期待されており、 岩井市をはじめとする関係5市5町2村の首長で構成される『国道354号整備促進協議会』より、早期整備の要望(平成17年3月7日)を受けている。

事業採択の前提条件

費用対便益 : 便益が費用を上回っている

手続きの完了:都市計画決定済

事業評価結果

費用対便益		B / C	4 . 1	総費用 4 1 億円 総便益	
事業	評価項目 評価			根拠	
の影響	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	渋洗 1km 克 主	現道の渋滞を解消する(岩井市神田山:現況旅行速度21.6km/h) 渋滞損失時間が約12万人時/年から約7万人時/年に改善。 1kmあたり(台kmあたり)渋滞損失時間 約4.6万人時/年km、約3.9万人時/年台km(現況) 茨城県平均:約2.1万人時/年km(約2倍) 全国平均 :約2.0万人時/年km(約2倍) 渋滞度曲線によると、茨城県内センサス区間の上位2割に含まれる。 茨城県内国道354号中第5位の渋滞損失時間。	
		事故対策	死(事故率の高い区間における事故の減少が見込まれる 易事故率 約130件/億台キロ(現況) (死傷事故率比(県内平均比)1.7 (現況)) 成城県平均:約75.1件/億台キロ(約1.7倍) 全国平均 :約118.4件/億台キロ(約1.1倍) 政率曲線よると、茨城県内区間の上位3割に含まれる。	
		步行空間	注目	すべき影響はない	
	社会全体への影響	住民生活	便性 三次	ス路線(猿島町~水海道駅方面/岩井車庫~野田市駅/猿島町~東京駅(高速バス))の利 性が向上する。次医療施設である水海道市~茨城西南医療センター病院へのアクセスが向上する分 45分)。	
		地域経済		‡市から都内太田市場へ出荷している農林水産品(レタス(約18千t)、ネギ(9千t)等)の流 D利便性が向上する。	
		災害		道354号は茨城県地域防災計画第一次緊急輸送道路に指定されているが、バイパスの整備 より、ネットワークのさらなる強化が図られる。	
		環 境		道におけるNO2排出削減量は4.2t/年になり4割削減。 道におけるSP排出削減量は0.4t/年になり4割削減。	
		地域社会	注目	目すべき影響はない	
事業実施環境			特筆	管すべき事項はない	

採択の理由

費用便益比が4.1と、便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続が完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。

また、当該事業箇所の現況渋滞損失時間及び事業実施による改善はともに大きく、渋滞対策の必要性・効果は高いと判断できる。

以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

<u>担当課: 道路局国道・防災課</u> 担当課長名: 鈴木 克宗